

川崎市立川崎病院
令和7年度第2回地域医療支援病院運営委員会 会議録

1 開催日時 令和7年8月26日（火）13時30分～14時01分

2 開催場所 川崎病院7階講堂

3 出席者

(1) 委員

古川 智洋（委員長）	川崎区医師会会長
大塚 宏之（副委員長）	川崎市医師会理事
佐々木 孝幸	川崎区歯科医師会会長
浅見 真吾	川崎区薬剤師会会長
小林 英之	幸区医師会会長
髭内 宏光	幸区歯科医師会会長
小林 由紀子	幸区薬剤師会会長
八木 美智子	川崎市看護協会常務理事
岡田 昇	川崎区町内会連合会
工藤 芳樹	川崎市健康福祉局保健医療政策部担当部長
若尾 勇	川崎区役所地域みまもり支援センター副所長
伊藤 健一	川崎市消防局川崎消防署長

(2) 川崎病院

野崎 博之	病院長
澤藤 誠	副院長兼患者総合サポートセンター所長
藤原 実香	副院長兼看護部長
上野 浩一	救命救急センター所長
鬼澤 勝弘	歯科口腔外科部長
小林 加寿夫	薬剤部長
松本 浩二	放射線技術科課長補佐
瀬川 裕	事務局長
伊藤 猛	事務局庶務課長
酒井 俊明	事務局医事課長
高橋 智常	患者総合サポートセンター副所長
舘山 奈緒子	患者総合サポートセンター担当課長
藤平 高志	患者総合サポートセンター担当課長

4 資料

資料1	紹介率・逆紹介率について
資料2	緊急受診・転院依頼応需状況について
資料3	医療機器共同利用予約受付件数について
資料4	PET-CT運用実績について
資料5	地域の医療従事者を対象とした研修について

- 資料6 連携登録医の登録状況等について
- 資料7 共同利用メニューの追加について
- 資料8 第3回市民公開講座について
- その他資料

前回運営委員会会議録

地域医療連携便りV o 1 . 47

5 議 事

- (1) 開 会 (司会進行 高橋患者総合サポートセンター副所長 (2) まで)
司会挨拶

- ・会議公開の確認
- ・委員全員の同意により公開。傍聴希望者なし。

- (2) 病院長あいさつ
(野崎病院長)

夏になり、コロナが少し流行ってきたこともあることから、地域の先生方からの依頼に応えられないことが少し出てきている。大変申し訳なく思っております。また、7月24日の川崎市の報道発表資料にありますとおり、病院事業決算に関しては非常に良くないということをございまして、我々としてもそれに対して何らかのアクションを起こさなければならないが、地域医療支援という立場から見るとそういう地域医療支援病院としての役割を果たすことは、経営上のマイナスになることではないので今後も皆様方のご助言に従いまして地域医療の推進を続けてまいりたいと思っております。それでは今日はよろしくお願いいたします。

- (古川委員長による進行)

- (3) 議事録署名人選出

川崎市審議会等の会議の公開に関する条例などに基づき、会議録の作成と、委員による当該会議録の確認が必要なため、委員会開催の都度、委員長が指名。古川委員長が佐々木孝幸委員を指名し、佐々木委員の承諾により議事録署名人となる。

- (4) 議 題

- 議題1 紹介率・逆紹介率について

(澤藤副院長)

- ・紹介率逆紹介率ですが上段の表に令和7年度4月から6月までの紹介患者の数、逆紹介患者の数、初心患者の数、紹介率、逆紹介率が記載されております。紹介患者の数ですが、昨年度から1箇月月平均1,000名を超えるようになってきてまして、令和7年度に入ってもその数字を上回っているということをございます。

逆紹介の方は病院としても積極的に各医師に勧めておりまして、安定した患者さんは地域の医療機関にお願いして見ていただくというそういうふうな体制をとろうとお話していて、こちらも人数としては以前に比べれば

高い水準を継続しているという状況でございます。結果として紹介率が89.9%、逆紹介率が111.3%と地域医療支援病院として求められている数値を上回っているところでございます。

(古川委員長)

- ・今更ですけれども紹介率と逆紹介率の分母と分子を教えてくださいませんか。

(澤藤委員長)

- ・紹介率、受診患者数のうち紹介状を持っている基本的には持っている方ということです。逆紹介に関してはこちらから書いた逆紹介をした数を分子としているものです。

(野崎病院長)

- ・分母に関しては地域医療支援病院の場合には、いわゆる初診療を算定している患者さんの数、分子に関しては紹介状を持参されている方のうち関連の医療機関から除くですから多摩病院と井田病院を除いたもの、それからプラス紹介状に準ずるものを持参された方ということで健康診断、人間ドック等の結果を持って持参された方は初診紹介患者としてカウントすると、逆紹介に関しては、分母は共通で分子は先ほどご紹介したとおりでございます。あともう一つ別の算定の方法があって地域医療支援病院に関係ない紹介率がもう一つ医療機関上は作らなきゃいけないとそちらに関しては再診患者数も分母になっております。

(古川委員長)

- ・ご理解いただけたと思いますのでよろしく申し上げます。

議題2 緊急受診・転院（転入）応需状況について

(澤藤副院長)

- ・地域の医療機関から当日、当院の患者総合サポートセンターに医師と医師の間で、当日の受診をお願いしたいという依頼、あと、入院している患者さんの転院をお願いしたいとそういうふうな方への応需状況ということになっております。4月から6月3箇月間の数字が出ておりますけれども、当日の緊急受診、応需率で言いますと一番最下段に3箇月の平均が出ていますが74.1%。入院率というのはその中で入院が必要となった患者さんですが、やはり医療機関の先生方が今日見てほしいという風な患者さんではやはり入院が必要なケースというのが比率が高くて約半数の方が入院されているという状況です。応需率に関してはできるだけ多くの応需を受けたいというところまでして、応需件数というところを見てほしいんですけれども毎月100名以上の患者さんは受け入れていて、これは以前より少し高い水準になっているんですけれども4月から6月というのは比較的疾患状況が安定している時期でして、冒頭で院長の挨拶にもありましたけれども夏になってくると感染の状況もあって依頼件数が少し増えているということで、これにはお示ししていないんですけれども、依頼件数が増えてく

ると少し応需率が下がってきているという状況があるかというふうに思っております。定員の方が当日という右の方の定員ですけれども当日すぐにといいわけにもいかないところもありますが、全件受け入れということをして続けております。

議題3 医療機器共同利用予約受付件数について

(藤平担当課長)

- ・上段の表、令和7年度の4月から6月までの医療機器共同利用予約受付件数でございます。10の検査項目等に対し上段の表の右下に記載があるとおりの合計で150件の予約受付がございました。下段には、令和2年度から令和6年度の受付件数が記載されておりますが、その5年間の平均件数は794.4件となっております。

(古川委員長)

- ・何か、この検査は積極的に受けていただきたいとかはありますか。

(野崎病院長)

- ・本来は、すべて受けていただきたいところではございますが、CTとMRIに関しては近隣に画像診断専門のクリニックがございますので、なかなか難しいかなと思いますし、PET-CTについては適応が非常に厳しいというところもございます。ただ、現状は医療における予防の改善という中に、やっぱり食事というのがかなり含まれてきておまして、栄養相談に関してはですね、された方がいいと考えられるケースが多いんじゃないかと思っておりますので、そちらに関してはまだまだこちらは余裕がございますので、ご依頼いただければ栄養相談をさせていただきたいというふうに考えております。

(古川委員長)

- ・私の施設も栄養相談をお願いしましたけれども、とても丁寧に指導を受けられますので、多分栄養相談をやっているということは多くの連携医療機関は知らないのだと思います。別に糖尿病に限らないということでもいいんですよね。

(野崎病院長)

- ・はい。

議題4 PET-CT運用実績について

(松本科長)

- ・4月、5月が絶対の合計で80件台だったのですが、6月に入りまして3桁の右肩上がりな件数になっております。右側を見ていただきますと、2割強は紹介していただいた患者さんで安定した数を紹介いただいて、いつもご協力いただきましてありがとうございます。

(古川委員長)

- ・PET-CT に関しては特に問題ないということですか？

(松本科長)

- ・順調です。

議題5 地域の医療従事者を対象とした研修について

(藤平担当課長)

- ・令和7年度の地域の医療従事者を対象とした研修でございますが、記載のあるとおり4回実施しており、計282名の受講者がございました。看護師向けについては、館山課長より説明をいたします。

(館山担当課長)

- ・資料には9件の講座が載っておりますけれどもその後もご依頼を多数いただいております。現在のところ、日程調整中のものも含めて16件の出張講座と地域ケア懇談会といったところを計画させていただいております。上の3件まではもうすでに終了済んでいて、それぞれの人数がこちらに入っておりませんが、現在のところ計133名の方ご受講いただいております。出張講座といったところでは現地に出向いてその施設のスタッフ様のみならず講座をしておりますのでその場でご質問をいただきながらとてもご好評をいただいているアンケートの結果となっております。

(古川委員長)

- ・看護師の出張講座というのは、連携医療機関側から依頼があるのですか。

(館山担当課長)

- ・はい。ご依頼いただいた方のご施設のところへ、出向いて講座をしております。

(古川委員長)

- ・今、依頼が殺到して大変な状況、そういうのはいくらでも今受けられますから、どうぞ、ありますか？

(館山担当課長)

- ・今のところ、各分野それぞれにご依頼いただいております。精神科の看護分野と感染に関しては依頼が殺到というか何件か来ている状況ではありますが、まだ分野によってはご依頼いただける場所もありますので、ぜひ今後もどしどしとご応募いただけるとありがたいと思います。

議題6 連携登録医の登録状況等について

(藤平担当課長)

- ・連携登録医療機関の登録状況について、令和7年8月1日現在で前回より

1件増えまして、618の医療機関等に御登録をいただいているところです。ページをおめくりください。

増減の内訳ですが、医科は新規が2件、閉院し登録を削除したクリニックが1件ございました。

歯科では新規が2件、閉院し登録を削除したクリニックはございませんでした。引き続きのご協力をお願いいたします。

議題7 共同利用メニューの追加について

(藤平担当課長)

- ・当院で消化器疾患の診断精度向上を目的として導入している超音波内視鏡(EUS)検査を地域の医療機関の皆様にご利用いただける医療機器共同利用のひとつとして、検査の依頼をお受けすることにしました。検査対象、検査日時、予約方法につきましては資料に記載があるとおりでございますので、後ほどご覧いただければと思います。

(野崎病院長)

- ・一般的な検査とはなかなか言い難いところなのですが、最近専門診療科の開業の先生たちもいらっしゃいますので、そういうところからのご依頼を想定しています。ある程度粘膜下腫瘍とか胆道疾患ですので広く一般の開業の先生方というよりは、何とか消化器クリニックとかそういうところを想定しているものでよろしくをお願いいたします。

議題8 第3回市民公開講座について

(藤平担当課長)

- ・次回の市民公開講座のご案内でございます。
10月29日(水)に整形外科の瀬戸貴之 医師による「その痛み、本当に50肩ですか? 実は多い、肩腱板断裂の治療について」と題しまして当院7階講堂において開催の予定でございます。今後、当院のホームページ等で広報をしていきます。

(5) その他

(藤平担当課長)

- ・お手元に前回の会議録と地域医療連携便り、を配布しておりますので、後ほど御確認ください。

(野崎病院長)

- ・地域医療連携便りの一番最後のところにも栄養相談のことが書いてありますのでよろしくをお願いいたします。

(酒井医事課長)

- ・9月の1日から救急において選定療養費7,700円を徴収するということが運用しようと考えております。今まで救急でいらっしゃった時に重症かどうかというところがはっきりとわからないというところで7,700円をとつ

ていなかったというのが現状でした。ただ今年の1月ですけれどもインフルエンザで当院にウォークイン含めて200人の患者さんがいらっしゃいましてとてもちょっと耐えきれそうな状態ではないということで選定療養費の方を取らせていただきたいと思います。ただ、もちろん救急車でいらっしゃった方、そして診断して入院につながった方、それとかあと再診の予約が入っている方、そして南部小児救急医療センターを当院は兼ねておりますので、小児科につきましては今申し上げたような患者様につきましては、7,700円は徴収しないというところで運用しようと考えます。

(古川委員長)

- ・患サポを経由して時間外に来るのは選定療養費の対象ではないということですか。

(酒井医事課長)

- ・もちろん紹介状があるという形であればもちろん7,700円は徴収いたしません。

(古川委員長)

- ・患サポを経由しなくても紹介状があればいいということですか。

(酒井医事課長)

- ・はい、大丈夫です。

(古川委員長)

- ・先ほどのインフルエンザのウォークインの200人の中に紹介状を持っていれば徴収しなかったということになりますね。

(酒井医事課長)

- ・そうですね、もしこれが適用されればというふうな感じですね。

(古川委員長)

- ・9月1日というのは来週から適用されるということですか。

(酒井医事課長)

- ・9月1日0時から行いたいと考えております。

(古川委員長)

- ・それは決定事項ということなんですね、基本的に。

(酒井医事課長)

- ・はい、そうなります。

(古川委員長)

・周知は終わっているんですか。市民の皆さんには。

(酒井医事課長)

・市民の皆さんというか、解釈、今まで重症でというところを取ろうと思えば取れたというところだったんですけれども。

(古川委員長)

・当日以降、もめるかもしれないですね。

(酒井医事課長)

・電話がかかってくれば、もちろんイの一番にご説明をしようと考えておりますので、そういったことで対応しようかなというふうに考えております。

(古川委員長)

・ちなみにマイナカードの利用率、もしくは今後の展開についてはどのように考えていますか？

(酒井医事課長)

・そうですね、今 30%から 20%と高くなってきているというところですが、やはり生活保護の方とか、なかなかうまくカードを持ってきて来られない方、あと、難病とかの方になると、またマイナカード以外にも当然医療証が必要になってくるというところですので、なかなか完全にマイナという形には難しいかなと思っていますけれども、まずはマイナ保険証というところを積極的に利用してもらうように各外来の方でも受付できるような形で今体制の方は準備しております。ですので今までは本当に総合受付のところだけにマイナカード読み取り機があったんですが各外来の方にも設定してありますのでそちらの方でやっていただくというような形でも可能になっております。

(大塚副委員長)

・地単といって地方単独公費なんですけど、横浜市がマイナンバーカードで入っています。東京都もそうになっています。茅ヶ崎市もそうだと思います。また、Hi-CARA は入っているのですか。

(酒井医事課長)

・Hi-CARA も使っておりますし2種類置いてあって確か Hi-CARA の方が性能がいいかなという風なところで考えています。

(大塚副委員長)

・9月からスマホに入っているマイナンバーカードでチェックイン。メニュー変わりますよね。iPhone で押して、iPhone で顔認証をチェックする端末機になるので、確保しておいたほうが良い。

(酒井医事課長)

- ・ちょっと川崎市全体として今ちょっと今すいません間違っていたら申し訳ないんですが、ちょっとまだ iPhone の対応というところがちょっとまだしていないというところで、今後ちょっと展開するというようなところは考えておりますので、すいませんちょっと遅れてますけれどもよろしくお願ひします。

(古川委員長)

- ・要はマイナンバーカードの実物を持ってこなくても、スマホで対応ということですよ。

(野崎病院長)

- ・それに対して機械に対しても、厚労省補助金を出しているとは重々承知しているんですけど、川崎市そのものが、いろんな書類の発行をそれで行ってないというのが現状なんですね、8月現在でそれが終わらないと我々の方もそれには動けないというところもございまして、その辺はご容赦いただければ幸いです。

(司会を事務局へ返す。)

(6) 閉 会

(澤藤副院長)

- ・本日はまだまだ暑い中、当院の地域医療支援病院運営委員会にご出席ありがとうございました。地域医療支援病院としては、地域の医療機関と一緒に市民の方々の診療を行っていくということで、方向性としては、外来は紹介患者を中心にして、できるだけ逆紹介して、安定した患者さんは地域の医療機関にお願いする。当院の限られた資源を緊急受診患者さん、入院患者さんに注ぎ込むという病院としてはそういう方向性を考えて少しずつですが、そういうふうに診療のほうが進んでいると思います。これからもそういう体制を目指して診療を行っていきたいと思いますので、外から見ても何かございましたらこういう機会でもいろいろご意見いただければ幸いです。

以上